

「土砂災害とは」

渋川市立渋川中学校 一年 平形 玲菜

今回、土砂災害防止に関する作文を書くために、土砂災害とは何なのか調べることにしました。気象庁のホームページによると「土砂災害は、さまざまの破壊力をもつ土砂が、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまふ恐ろしい災害です。山腹や川底の石や土砂が集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象を土石流といいますが、また、山の斜面や自然の急傾斜の崖、人工的な造成による斜面が突然崩れ落ちることを崖崩れといいます。」と書いてありました。私はこれを読んで、土砂災害は恐ろしいと感じました。

気象庁のホームページには実際に起こった土砂災害の事例も載っていました。平成二十四年七月熊本県阿蘇市で大雨により、土石流や崖崩れが多発し、死者・行方不明者二十五人が生じるなど大きな被害となりました。被害にあった阿蘇市の写真では、山が崩れ、そこから離れている場所までも巻き込まれ、家が壊れていたり、流されていました。阿蘇市のホームページを開いてみると、多くの被害状況の写真が載っていました。道路が崩壊している写真、建物が壊れて木材が散乱している写真もありました。丈夫な道路や建物をこんな風に崩してしまう土砂の力の恐ろしさが伝わりました。自衛隊、消防、警察の方が行方不明者を捜索している写真がありました。川沿いや土砂で崩れてしまった建物の周りをたくさんの方が懸命に捜索している様子が伝わりました。本当に大変な災害だったんだと思いました。

私は生まれてからまだこの様な災害にあったことはありません。母に、土砂災害にあったことか聞いてみました。母は四十年群馬県に住んでいて、命の危険を感じる様な災害にはあったことがないと言っていました。ただ、恐怖を感じたことはあったそうです。それは、私達が小学一年生の十月に起きた台風です。詳しくは覚えていないのですが、雨と風がとても強かったようです。停電にならないか心配だったそうです。そんな中、私の父は消防団に所属しているので、出勤要請があり家を離れてしまいました。外は雨と風が強くて、もし避難をしなくてはならないとなったらどうすればいいのか母は心配だったそうです。私達は小学一年生で弟はまだ三歳だったので、母一人では子供三人を連れて避難所にたどり着けません。これ以上ひどくならないように祈っていました。結局渋川市はそれほど大きな被害はなかったそうです。私達は避難する必要もなく、消防団の父も夜には家に帰ってきたそうです。この話を聞いて、自分は覚えていないけれど母はそんなに不安だったんだと知りました。確かに小さな子を連れて避難するのは大変だと思います。

私はもう中学生になったので、災害が起こった時に自分に何が出来るか考えたいと思います。まず地域で発行しているハザードマップを確認してみました。名前は知っていたけれど、中を見たことはありませんでした。避難情報の流れや特別警報の段階について書いてありました。特別警報が発表されていなくても早め早めの行動が必要とのことでした。それからハザードマップに非常時持出品が載っていたので、我が家の非常時持出品を確認してみました。懐中電灯や医薬品、衣類などが用意されていました。非常食や飲料水はあったけれど、必要な量には全く足りていませんでした。今度買いに行きたいと思いません。

それから指定避難所も確認しました。今避難が必要になっても持出品を自分で持っていくことが出来ます。小さな子を連れて人やお年寄り、体の不自由な人がいたら避難する時にお手伝いが出来たらいいなと思います。災害時に私に出来ることは少ないかもしれませんが、でも自分に出来ること、持出品をチェックする、避難場所を確認するなど出来ることをしたいです。